

新年号

ゆうあい報  
おたがびたる



特定医療法人  
祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室  
責任者 織田 正道 <院内報>

夢と希望を抱き、新たな未来に  
向けてのスタートの年に！

特定医療法人 祐愛会理事長

織田正道

一、病院機能評価で全国一位に！  
現在地に病院を移転してきてから百年の節目を迎えた二〇一〇年、幸先の良いスタートとなりました。

一月十日の日本経済新聞に掲載された日本医療機能評価機構の特集記事で、高評価(一〇〇点換算で七十五点以上の病院)だった病院が公表されました。受審病院二五七〇病院の中で、当院は七九・八の最高得点で全国一位であることが分かりました。この地方の小さな病院の取り組みが、高い評価を得ることができたのは、病院を支える皆さんの日々努力の積み重ねによるものだと思います。

このことは、まさに吉田松陰が主宰した松下村塾の教育理念『華夷弁別』の教えそのものです。この意味するところは、「どのような地方にあつても、そこが世界の中心と思つて、腰を据えて努力すれば、必ず世の中に有用なものを発信し、有用な人を輩出させることができる」(百周年記念誌で西山雅則院長談)との教えです。

我々はこれからも更に二十一世紀のモデルとなり、全国に発信できる開かれた病院を目指して進んでいこうと思ひます。

二、未来構想プロジェクトチームの発足

さて、加速度的に高齢化が進む時代にあつて、良質で継続的な医療・介護が保障され、人々が安心して健やかな生活が送れる、そのように豊かな超高齢・成熟社会の構築が望まれます。これからは医療・介護に関連するイノベーションが次々と起こるものと思われまふ。我々はこのような時代変化が起こつても、組織として柔軟に対応できるように、「未来構想プロジェクトチーム」を立上げたいと思ひます。現在の延長線上ではなく、これまでにない新たな発想で五年後、十年後の「地域医療」や「当法人の役割」などをテーマに議論を進めていきたいと考えます。

三、Kapiolani Medical Center (米国ハワイ州)と国際姉妹病院へ

これまで当法人は豪州の Hammond Care Group と教育提携し、認知症アセスメント(CPA)の共同開発などを行ってきました。そして本年四月より、さらに米国ハワイ州の Kapiolani Medical Center と国際姉妹病院の提携をすることになりました。今後、医療マネジメント専門家の交換と研修プログラムを通じ、双方の利益となる分野を追究していく予定です。詳しくは次号にて報告いたします。それでは二〇一〇年における法人方針並びに各分野の目標を示します。

二〇一〇年法人方針

「超高齢社会を迎えた今、地域の人々が安心して健やかな生活が送れるように保健・医療・介護・福祉分野がシームレスにつながる総合ヘルスケアシステムの構築を目指します」

◎保健・予防分野

「地域の人々の健康を守るため、生活習慣病の予防・改善に継続的に取り組みます」

- 一) 人間ドック、専門ドック(脳・乳腺ドック)、二次検診、特定健診・特定保健指導に積極的に取り組み、ブランド化を図る
- ・ 市民向けの公開講座など、地域への浸透を図る
- 二) ヘルスアップ事業にも力を入れ、ウォーキング教室、栄養教室の継続を図る

◎医療分野

「地域に安心と信頼を得る急性期病院として、更なる医療の質の向上と、効率化を目指します」

- 一) 地域ニーズにフィットした、地域に選ばれる病院づくり
- ①急性期機能の充実

- ・ 医師の確保・増員
- ・ 救急患者受入れ体制充実(救急隊との連携強化)
- ・ クリニカルパス六〇％利用
- ・ 亜急性期病床の再検討

- ②医療連携の強化ならびに介護分野との連携推進
- ・ 地域医療機関への積極的な情報発信、新規入院患者一〇％増
- ・ 介護保険サービス、訪問看護ステーションとのシームレスな連携

- ・ 医療と介護の基本情報を電子化し、一元化と共有化を推進
- 二) 医療の質向上を目指して
- ・ TQM (Total Quality Management) 推進

◎介護・福祉分野

「施設化に向けて、地域密着サービスの充実を図ると共に、認知症ケアの向上に努めます」

- 一) 地域に選ばれる介護サービスに向けて
- ①医療とのシームレスな連携推進
- ・ 医療と介護の基本情報を電子化し、一元化と共有化を推進
- ・ 訪問看護ステーションの病院内開設
- ②個別性を重視した通所サービスの充実に努めるとともに、介護予防の更なる推進
- ③介護スタッフの能力向上に向けて、「認知症ケア」の教育研修強化

- 二) 社会福祉法人設立・小規模多機能開設時の順調な運営
- ・ スタッフの教育研修の徹底
- ・ 上期(～九月)までに利用者二十五名に

◎各分野共通目標

- 一) スタッフに選ばれる職場づくり
- ①医師の事務作業軽減のため、ドクタークラークの増員と教育
- ②多様な勤務形態でワークライフバランスの推進
- ・ 短時間労働止職員制度の適応拡大など
- ③子育て支援・介護支援の充実
- ④業務の効率化を図り、時間外勤務の短縮
- ⑤人材育成に向けた人事制度の基本的見直し
- ⑥グローバルナース・ケアワーカーの育成と活用

- 二) セイフティマネジメント(医療安全、転倒転落防止、院内感染防止)の更なる向上
- 三) 各事業所の安定した運営
- ・ 重点項目の目標値の達成と評価

- 四) Kapiolani Medical Center (ハワイ) と国際姉妹病院へ
- ・ 専門家の交換と研修プログラムを通じ双方の利益となる分野を追究

- 五) 未来構想プロジェクトチームの発足

以上、これからも地域のニーズにあった、地に足の着いた運営を行い、着実に前進していきます。

# ゆうあいビレッジの 取り組みと今後の展望

ケアコートゆうあい施設長

千々岩親幸

昨年は介護報酬の改定、介護の人材不足の問題等介護・福祉に関する話題も新聞などで大きく取り上げられました。また、マスコミなどの調査から全国の介護施設の新設が計画の半分しか達成できていないことが判明し厚労省は急遽計画の再検討を行い、施設建設に関する交付金等の予算の計上しております。このように、昨年は数年後の高齢者の急増を目前に国、地方自治体ともに介護に関するハードウェア、ソフトウェアの充実をはかり始めたようです。私どもの鹿島市も杵藤地区広域市町村での施設整備計画が立てられており、制度改正後の平成十八年からは第三期事業計画として介護予防給付、地域密着型サービスの充実が行われてきました。しかし、この地域でも全国同様その計画の半分も達成できていない状況でした。

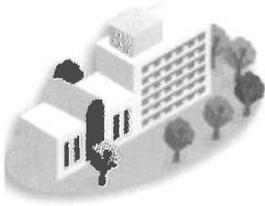
介護予防とは、主に要支援の方々に對して身体面、認知面における予防サービスを提供することで、ゆうあいビレッジでは昨年末にマシントレーニングなどのフィットネスを行う介護予防事業(フィットネスゆうあい)をスタートしました。

地域密着型サービスは、①小規模多機能居宅介護、②夜間対応型訪問介護、③地域密着型介護老人福祉施設、④地域密着型特定施設入居者生活介護、⑤認知症対応型共同生活介護、⑥認知症対応型通所介護の六つのサービスが含まれます。どれも正式名称ではわかりにくいですが現在ゆうあいビ

レッジには通称で言う⑤のグループホームと⑥の認知症デイサービスがあります。第三期事業計画は平成二十年で終了し、昨年からは第四期事業計画が始まっているのですが、前期の遅れを取り戻すべく計画に参加する事業者は完璧な事業計画を自治体に参加するように要求されました。

祐愛会では地域の介護・福祉をさらに充実させるためにこの計画に参加を希望し①と④のサービスの新設を認めてもらいました。①の小規模多機能居宅介護は二十五名の利用登録者を集め、その方々に「デイサービス」を中心に、随時の「泊まり」や「訪問」のサービスを提供する事業です。④の地域密着型特定施設入居者生活介護は、わかりやすく言うと介護付き有料老人ホームです。ある程度自立している方で時に介護が必要になる状態の方が入居されます。それぞれが最大二十五名程度の利用となります。小規模多機能は春には事業開始、有料老人ホームは本年中には建設開始となります。両施設が稼働し始めるとさらに五十名くらいの方々が住まわれたり通われたりするわけで今年には介護スタッフ増員や運営の問題で忙しくなりそうです。

老健はリハビリや在宅復帰、認知症に関する加算報酬が認められたおかげで運営的には大変助かりました。今年も中間施設としての在宅復帰、リハビリ、認知症介護に力を注ぎたいと考えております。本年もよろしくお願いいたします。



# QC活動と 今後の取り組み

看護部長 西村美枝子

平成二十一年度BSCの「成長と学習の視点」でQC活動を取り上げています。今年度は、指導者の育成を目的に、伊山副院長を委員長とした推進委員のメンバーで、月二回の委員会から始め、コスト削減「消耗品の適正管理」について取り組み中です。皆さまにも、次年度は部署単位、委員会やグループで活動を行って頂く計画です。QC活動と難しく考えることはありません。皆さんが今までしてきた、改善や気づきを「QCストーリー」の手順に乗せ、いろいろな視点より分析を行い、優先順位ややるべきことを見つけ、効果を見える形にする取り組みです。

QCとは質の管理(Quality Control)のことです。総合的品質管理(TQM: Total Quality Management)の活動の一つです。QC活動は、「QCストーリー」と呼ばれる手順①テーマ選定、②現状把握、③要因分析、④対策の立案、⑤対策の実施、⑥効果の確認、⑦歯止め(標準化)、⑧残された問題や課題を検討する。QCの七つ道具(いろいろな道具)という手法を使用し、自分達で問題を発見して、アセスメント、計画立案、実施、評価のPDCA(Plan、Do、Check、Action)サイクルを回すことにより問題の解決を図る活動です。QC活動の効果には、「有形の効果と無形の効果」があります。有形の効果とはコストダウンといった経済的な効果で、無形の効果とは業務改善によって職場が生き生きしてきた、

モラルが向上したなどの効果のことです。では、実際にやってきた手順に沿って、お話をします。①テーマ選定までは、全員が同じ認識で参加できるように、ディスカッションの機会を多く持ちました。今回は、決まっているようで守れておらず、周知不足や無駄が経費の増加になっている「消耗品の適正管理」に決め、活動を開始しました。②現状把握③要因分析は、KJ法や特性要因図(fish bone diagram)を用い、問題の整理を行いました。問題は何故起こったのか、それは何故かと根本的要因まで掘り下げ分析を行いました。④対策の立案では系統図を用いて一次二次・・・と対策を出し合い、対策がより具体的手段で実行可能なレベルまで検討しました。マトリックス図を用い、効果性・現実性・重要性・持続性・協力的性の視点より点数化しました。この点数をもとに緊急度と重要度より採用手段を決定しました。現在は、それぞれの担当に分れ実施中です。実施している内容は、①規約・規定の見直しや請求と払い出し方法の取り決め、②消耗品の雑貨と文具の統一、③各部署の消耗品の雑貨と文具の定数化、④中央管理・保管場所統一、⑤委員会の発足、⑥PC管理システムの導入を目指し活動を行っています。

このQC活動の取り組みについては、皆さんに報告する機会を予定しています。次年度は多くの方が「QC活動」に参加されることを願っています。



# ハワイ研修 「アメリカの医療を学んで」

内科医師 朝長元輔

この秋、佐藤先生、井田人事課長、宮崎放射線部主任と四人で、ハワイ研修に行ってきました。ハワイの医療経営コンサルタントであるアンディ・ニノミヤ氏の案内で、リハビリ病院、救急病院、フィットネス施設、Women's health center (女性専用の健康相談施設)、日帰り手術センターなどの医療施設を見学してきました。



ハワイの医療施設を見て強く感じた点は、ビジネスの要素が強いということ。日本でも専門医の広告規制緩和やテレビCMの放映など、

↑ハワイ研修 コマーシャル的な面が目立つようになってきていますが、ハワイでは各病院・施設が、それぞれの特徴を積極的にPRし、他の施設と競争して患者・利用者を集めるよう努力します。もちろん我々の施設でも、患者満足度の向上など、サービス面での努力をしています。他の病院と競争しているという意識はないと思います。そもそもハワイの病院は医者

スタッフが雇い、それぞれ日本の「企業」と同様に業務を展開します。女性が利用しやすいような雰囲気・内装作り、人が多く集まるショッピングモールに透析施設を建てる、など、利用者を集めるための工夫をしています。もちろん日本でも、医療従事者がビジネスのことをある程度考えなくてはいけない時代に来ているのかもしれませんが、大切なのは、自分たちの病院・施設の特徴をどのように打ち出していくかだと思います。

少子高齢化が進むこの社会で、どういった医療を行いたいのか。どういう医療が求められているのか。そういった法人としての大きな特色・方針を決めるのは、職員一人一人の仕事に対するビジョンだと思います。自分がどういった仕事をしたいか、どういったことを頑張りたいか。それぞれがビジョンを持ち、それをお互いに評価し、達成できるような環境作りが必要だと感じました。



↑ハワイ研修 病院見学

## 全日病第三十三回

### ハワイ研修に参加して

看護部四階病棟主任 前田美恵子

私たちは(病院から)医事課課長 中野浩輔、看護部四階病棟主任 前田恵美子、四階病棟 川原麗子、三階病棟 野中香織、三階病棟 正保、救急外来 田中恵子、ゆうあいピレツジからケアコートゆうあい一階療養棟 山口健、十月十九日から十一月三日まで全日病第三十三回ハワイ研修旅行に参加しました。ホノルル空港に降り立ったときから南国パラダイスならではの自然の美しさが目に飛び込んできました。ホテルの窓からはワイキキビーチが一望でき、広大な自然を目のあたりにすることができました。年間通して温暖な気候で、直射日光はまぶしく、しかし、直射日光の当たらないところではとても爽やかに過ごすことができました。



↑ハワイ研修参加者

その中で、「ハワイ(米国)における医療システム」についての研修を受けました。日本ではある程度保険により保障されているため安心して病院を受診することができますが、アメリカでは保険を持っていない人が多く、病気になっても病院にかかることができず、間

に合わなくなつて救急で受診するようになることが多いとのことでした。日本の保険はコミュニティに重点が置かれていますが、アメリカでは個人に重点が置かれており、個人の経済力によるところが多い印象を受けました。また、アメリカでは看護師が知識と経験で提案ができるポジションに変わってきており、医師と看護師が一つのチームとして働くようになってきています。私たちが視察研修を行ったセントフランシス・リパティ病院は透析専門の病院で、その中では技術者と呼ばれるアメリカ政府より免許を与えられている者によって透析が行われ、医師による診察は月一回ほどで患者の水分管理や家族指導なども看護師によって行われていました。家族指導を行うことにより、家庭で透析を行っており、在院日数も非常に短くなっていました。アメリカでの病院経営は医師によってではなく会社によって行われており、その会社が利益を出す為に自分の病院の特色を打ち出すようにしていました。

この研修で看護師がより高度な知識と技術を身につけ、医師とともにチーム医療に携わっていくことが今後の医療制度のあり方ではないだろうかと思われました。この研修は有意義なものでしたが、研修後のハワイでの時間も心を癒してくれる最高の時間でした。どこまでも青い海とさわやかな風、まぶしい日差しを浴びながらこれからの活力を引き出してくれるハワイの地に感謝でした。



でも青い海とさわやかな風、まぶしい日差しを浴びながらこれからの活力を引き出してくれるハワイの地に感謝でした。

